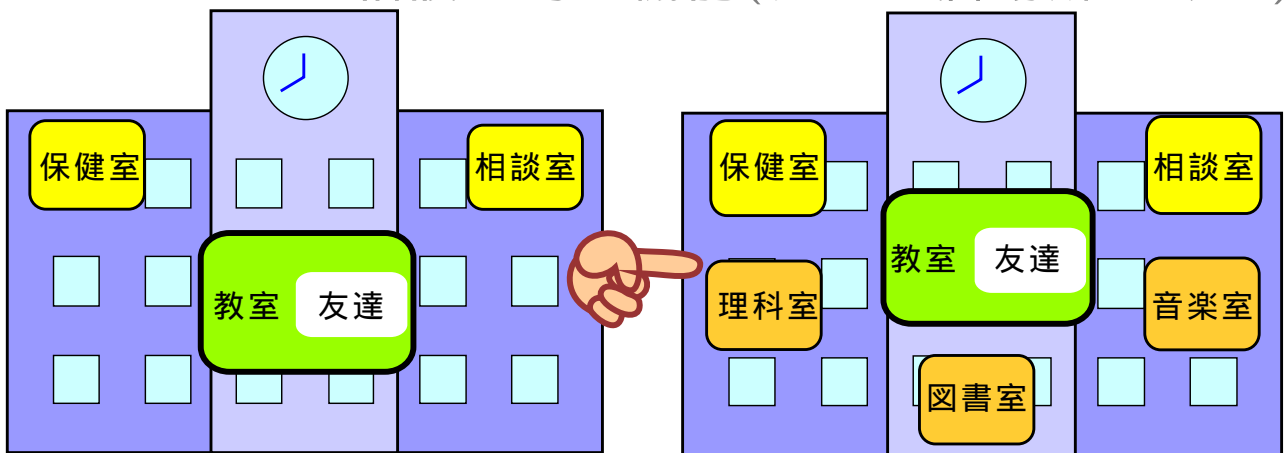


理科専科ができる教育相談的なかかわり

学校に適應できる児童、認め合いながら授業に参加できる児童の育成
武 佳行

特別教室を充実させ、**相談室的な機能(児童の居場所づくり)**



今までの一般的な学校

これからの学校

授業に**教育相談的なかかわり**を取り入れる

実験や観察時の共有化

実験方法や結果の予想、結果の確認など、内容が明確で目的を持った話合いは、お互いの個を尊重し合い、違いを認めながら集団が高まっていく場につながる。

コミュニケーション能力の育成

観点をしばった発問

「発芽すると思う」「発芽しないと
思う」など、答えを持ちやすい発問

意志決定の場を設ける

ぼくの考えは「私」など黒
板に名札を貼ったり、ノートに書いて、
全員が意志決定できるように

一人一人の児童に自分なりの答えを持たせ確認させることが、その次の「なぜそうなるのか」や「答えは 。理由は 」などのコミュニケーション能力を育てる学び合いの基本となる。また、意志決定をすることで授業傍観者を少なくすることができる。

特別教室が相談室的な機能を果たすために 児童が立ち寄りやすい雰囲気づくり



積極的な生徒指導(「欠席していた ちゃんが実験していないので、今日の放課後一緒につきあってあげて。」とって呼び出す。など)



授業に教育相談的なかかわりを取り入れる 実験や観察時の共有化へのステップ

授業のねらいや内容を確認

わかりやすいようにプリントにしたり、黒板に提示したりしてクラス全員が確認できるようにする。

課題や準備、作業の協力・分担

グループで話し合い、誰が何をするのかを決める。コミュニケーションをとりながら準備をし、作業できるように指導する。

結果や考察の共有

グループで実験結果などを確認し考察する時間を確保する。個人で考察して終わりにするのではなく、グループ全体で確認し考察することを徹底して指導する。このように指導することによって、学び合いが生まれる。また、授業傍観者や自分勝手に作業する児童が少なくなる。

